



6月29日 礼宮結婚式を突破口とする

天皇大キャンペーンを許すな



山月即位の礼、大嘗祭反対 暗黒と戦争の歴史をくりかえすな

日本支配階級、政府・権力は、今秋十一月の天皇即位の礼と大じょう祭をテコに歴史の反動的・大転換を図ろうとやみくもに、天皇制攻撃をしかけてきている。

六月二十九日の礼宮・紀子の「結婚の儀」を皮切りに、マスコミを総動員し、「庶民の花嫁」などと「ソフトムード」をあおりたて、その裏では、「血筋」「万世一系」をおし出し、全人民に天皇制のもとへの屈服を強制し、それに反対する者は警察権力の弾圧、右翼のテロルでおしつぶすというものである。

憲法の「政教分離」「象徴天皇制」をも踏みにじり天皇の神話化、絶対化をな

しとげるといっているのである。数千万のアジア人民を虐殺した十五年戦争の元凶である凶暴な天皇制を、今再び登場させようとしている。

仮にも、こうした攻撃に日本労働者人民が屈し、祝賀ムード一色に塗りつぶされ、「世をあげてお祝い」するような状況がつくり出されるなら、労働運動はもとより、民主主義や自由、言論、政治活動は一切、禁圧され強権的な暗黒の時代へと歴史は引きもどされてしまう。神

こうした政府・権力の動きに対し、広範に危機意識、不安感が高まっており、さまざまな反対運動がつけられてきているのも現実である。

これを公に告知し、人民・大衆にその「威力」を誇示する儀式といわれている。大じょう祭とは、日本古来から伝わる神道儀式といわれ、前天皇の体にくつついて天皇霊を新天皇が受け取るための儀式とされしており、これによって天皇が神になるといわれるわけである。

即位の礼とは、新天皇は、昨年一月にいわゆる「三種の神器」を継承し即位しているが

「象徴」の仮面をはぎ、凶暴な天皇制の素顔が

天皇が神になる?!

「連合」足下から

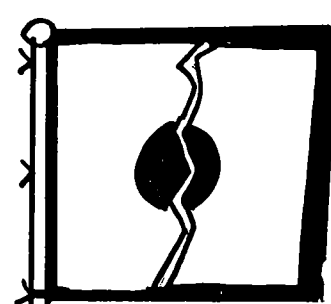
日の丸・君が代反対の広範な闘い!

日

して、一切文句は言わせないというのである。論理も、納得させる一片の理屈もないから、反対の声をおさえこむために、警察の弾圧や右翼のテロが必要なのである。

政府・権力は、人民大衆の「良識」を恐れているのである。敵の恫喝にひるまず、断固として反対の声を発したとき、彼らの狙いは破綻する。

敵の反動キャンペーンを打ち破り、十一月即位の礼・大じょう祭反対の大ききうねりをつくり出そう。



天皇制は、民主主義や自由、科学や論理的学問とは絶対にあいいれない。それらを認めたら、「天皇制」は存在できない。矛盾だらけである。

利害と対立し、全人民を敵にまわしていく。本質的には、日本支配階級、政府・権力は、大変な危機をかかえているのである。

現に、今春の卒・入学式で日の丸・君が代反対の闘いが、全国各地で住民と教育労働者が一体となつてた